

生き生きした演奏 届け

月 ヲ 月 ヲ 月 ヲ 月 ヲ

28日 小樽で大学生ら管弦楽



若手奏者の管弦楽コンサートをPRする実行委メンバー

中高生が独奏披露

小樽商大室内管弦楽団などに所属する大学生を中心に若手奏者が演奏する「ユース管弦楽コンサート」が28日午後2時30分から、小樽市色内2の市民センター・マリナーホールで開かれる。バイオリン協奏曲では中高生3人が独奏する。若手の技術向上を目指し、学生らでつくる実行委が初めて企画。実行委は「向上心あふれる若手の演奏を聴いてほしい」と話している。(二坂郁夫)

演奏するメンバーは小学6年生から社会人までの46人。同管弦楽団のほか、北大交響楽団、室蘭工大管弦

楽団などを中心に構成している。今後の演奏活動に生かそうと、今回の演奏会のためにユース管弦楽団を演奏するメンバーは、シユトラウス2世の喜歌劇「こうもり」序曲、モーツァルトのバイオリン協奏曲第5番「トルコ風」など5曲。このうち協奏曲第5番は3楽章あり、

足させた。

小樽松ヶ枝中1年の丹治龍さん、札幌南高1年の斉藤優織さん、同校2年の堂向修央さんの3人が楽章を分担しバイオリンの独奏を披露する。現場で演奏を

取りまとめる役を担うコンサートミストレスでバイオリン奏者の徳田莉万さん(小樽商大3年)は「若手ならではの生き生きした演奏にしたい」と話している。

入場料は高校生以上が千円。中学生以下無料。チケットはマリナーホールなどで取り扱っている。問い合わせは実行委 ☎0134・61・1500へ。



小樽のお酒 魅力知って

関係者に紹介

小樽で製造されている日本酒とビール、ワインの魅力を合同で学ぶ「小樽のお酒をもっと知ろう」が24日、運河プラザで開かれた。飲食店関係者ら約40人が参加し、地元の酒の魅力を再確認した。

小樽観光協会とNPO法人ワインクラスタ―北海道

(小樽)が3種類の酒がある小樽の特色を観光振興に生かそうと初めて企画。同法人の阿部真久代表が「地元のお酒で集客増」と題して講演した。写真。国内外から食を目的に訪れる観光客が増える中、「地域性は強力な売りになる」と指摘、地元で造られる酒の特徴を知り、相性のよい料理まで顧客に説明できることの重要性を強調した。

また、小樽で酒造りをしている田中酒造、小樽ビー

ル、北海道ワインとの交流会が行われ、3社の関係者が自社の銘柄を試飲してもらいながら、それぞれの特徴を紹介した。

(中野訓)

※ 阿部氏は本学OB